

令和5年度 第2回岡崎市行財政調査会 会議録	
開催日時	令和5年12月27日(水) 午前10時00分～午前11時00分
開催場所	岡崎市役所東庁舎6階 601号室
委員	出席者：太田健介、小森唯、中嶋拓、中嶋有美子、播元公昭、松下康之、三浦哲司、宮澤会美香、米津眞 欠席者：丹羽美穂子
事務局	財務部長：伊藤雅章、行政経営課長：勝上典、同課副課長：山内智弘 同課主任主査：光田和広、同課主事：米田優 総合政策部企画課主任主査：中村衣里
会議次第	議題 事務事業評価の見直しについて
傍聴者	なし
議事要旨	<p style="text-align: center;">－ 開会 －</p> <p>議題 事務事業評価の見直しについて</p> <p>資料に基づいて事務局から次のとおり説明。</p> <p>事務事業評価では総合計画に基づいた大局的な施策の進捗状況を把握することができない。</p> <p>総合計画は個別計画を包含する形となっている。令和8年に見直しを控えているが、個別計画の進捗状況を把握するための手段が定まっていない。</p> <p>これらを踏まえ、事務事業評価の仕組みを活用して個別計画の実績を把握することで総合計画の進捗管理ができるようにしていく。</p> <p>【各委員の主な質疑】</p> <p>○松下委員 評価の対象外となる事務事業について、業務改善に取り組む計画はあるか。</p> <p>(事務局：光田) 同じコストや同じ人員で効率的に行えているかという部分については、セルフチェックシートを活用して見直しを行う。</p> <p>○松下委員 数値目標を設定していない個別計画は、どのように評価を行うのか。</p> <p>(事務局：光田) 計画の中には、期間と数値目標を立てて実施するものだけでなく、抽象的な言葉で目標が定められているものや、事件が発生した際の対応を定めているものがあり、数値目標の設定に馴染まない場合もある。個別に精査していく中で、数値目標が定められるのに定めていない計画があれば、各担当課と調整しながら改善を図っていきたい。</p>

○松下委員

他市も同じような見直しをしているのか。参考にした市はあるか。

(事務局：光田)

県内の中核市である豊田市、豊橋市及び一宮市を調査した。いずれの市でも総合計画の達成度を測るために事業の成果を把握する取組を行っていた。特に豊橋市の取組が私たちのイメージに近かったので、夏に視察に行き、担当者と意見交換をしてきた。

○中嶋拓委員

従来の業務活動評価表も、今後実施するものも、計画に基づいて細分化された個別計画や業務活動の成果や実績を把握するものであるが、PDCA サイクルを動かすために結果に対するチェックとフィードバックを行う仕組みがあっても良いと思うが。

(事務局：光田)

今回は実績の把握の仕組みを変更する案を示したが、委員指摘のとおり、評価の仕組みはまだ具体的ではないので、今後つめていきたい。豊橋市では以前、A が予定以上の成果、B が現状維持、C が改善、D は廃止すべきという ABCD による評価を行っていたが、令和 4 年度の見直しで取りやめたため、担当者としては順位付けに苦慮していると聞いた。

○三浦委員

評価の目的が総合計画の進捗管理であるとするれば、評価というよりは実績把握ではないか。一般的に政策評価の目的は、説明責任を確保することと、評価結果を受けて政策の改善に活かすこと、企画立案者の専門知としてフィードバックするところにある。評価の結果を次に活かすことがポイントであると思うが、改めてその点について教えていただきたい。

(事務局：光田)

たとえば 5 年後に 0 を 100 にする計画の場合、毎年 20 ずつ上がっていかなければならないが、その実績が 10 だったり 5 だったりした場合には巻き返していかなければならない。目標に対する現状値を把握することで、政策に対する力の入れ方を検討することができると考えている。

○三浦委員

現状把握に重きが置かれている点が気になった。取りまとめた結果の数値を分析して、原因を解明して取組を改善していくという作業が必要である。

(事務局：山内)

評価というと、従来のように、ABCD のような絶対評価をイメージしがちであるが、三浦委員の言われるように結果を分析して、行政活動をより実効性の高いものにしていくための評価を目指していきたいと思う。

○三浦委員

資料 2 に示されていない計画もあると思うが、何か事情があるか。

(事務局：中村)

総合計画に基づいたものを切り出した形になっているので、掲載されていないものもある。

○宮澤委員

セルフチェックが3年に1回という点について、人事異動で担当者が変わってしまうと、チェックの結果を踏まえた改善が引き継がれないことも心配される。セルフチェックシートを3年に1度の頻度で行う理由を伺いたい。

(事務局：光田)

毎年行ったとしても結果に大きな変化が出なくなってしまうと考えたためである。これを使って都度担当課で評価を行ってもよいと考えている。

○播元委員

3年に1度というのが適正なのか気になる。個々の業務改善につなげていこうとすると、より個々の業務進捗が必要になる。3年というスパンは長いのではないか。

○米津委員

セルフチェックシートは誰が作成することを想定しているのか。

(事務局：光田)

事務の担当者である。それを係長、課長がチェックし、最終的に課でまとめる。

○米津委員

事務事業が上位計画にどれだけ貢献しているかというところを見極めるところが重要である。その点、実務担当者レベルでは事業の取捨選択まではできないと思う。例えば、部長が所管の個別計画の実績を全体的にチェックして、指標に対して実績値が十分出ているのに目標値が変わっていないとか、この事業はもう必要ないのではないかとか、そのような事業の整理に活用できると良いと思う。

○三浦委員

時間外労働や働き方改革について問題となっているが、労務管理を評価の対象としない点がある。超過勤務が多かった場合、上長と面談を行って仕事のやり方を見直すなどの取組をしていると思うが、その活動に対する評価をしなくなってしまうのか。

(事務局：光田)

事務事業評価の体系分類上の労務管理は休暇や勤務時間などの一般的な管理事務が全部包括された形になっているため、成果を上げる必要のない業務に分類した。超過勤務等の問題については、個別計画の「特定事業主行動計画」に数値目標が定められており、こちらで成果の把握を行っていく。

○三浦委員

個別計画のもとに事務事業がぶら下がっているということだが、個別計画と事務事業には重複は無いのか。事務事業によっては個別計画がまたがるよ

うな性格のものもあると思う。その場合評価はどうなるのか。

(事務局：光田)

現在の体系は予算の体系と一致しており、現時点では整理されているものと考えている。

○三浦委員

課や係をまたいで新しい可能性を模索するような活用ができると良い。

○中嶋拓委員

個別計画一覧表を確認すると、目的を同じくしているように思われるものがある。個別計画が分かれることによって担当課も分かれてしまうのではなく、一緒にやっていければ効果的であると思う。

(事務局：光田)

計画策定の根拠が違うので仕分けはできているのではないかと思うが、細かく見ると数値目標が同じだったという例はあるかもしれない。新しい評価ではそういうことにも気付いていきたい。

○米津委員

常に改善の意識をもって業務にあたってもらいたい。今回の見直しを通じて、より体系的なところが見えてくると思う。職員一人ひとりが、自分のやっている仕事について、上位計画への貢献度を意識して仕事していただくと非常に良い実績になると思う。

○中嶋有美子委員

総合計画を見ると、全体として、ケアラー、介護を行う側に関する規定が見えてこない。時間管理や子育ての世代だけではなく、働き盛りの方が抱える介護の問題についても視点を持っていただきたい。

○太田委員

総合計画には中期的なテーマがあり、テーマごとに部署が割り振られているが、全体を把握してジャッジする機能や組織はあるか。

(事務局：中村)

企画課で行っているが、個別計画の詳細まで現時点で踏み込めていない。

○太田委員

企画課は、総合計画から業務活動までのどこまでの範囲を監修しているのか。

(事務局：中村)

基本的に総合計画のみである。個別計画はそれぞれの担当の部署に任せており、進捗管理ができていないという課題がある。

○太田委員

一番の末端業務と総合計画はどのようにつながってくるのか。

(事務局：光田)

それが今までできていなかったもので、今回の取組で作っていきたい。

○太田委員

政策・施策はどこが管理していくのか。

(事務局：山内)

行政経営課と企画課がタッグを組んで行っていきたい。

○太田委員

計画の達成度が職員個人の仕事の評価にもつながってくると、ワークエンゲージメント、やりがい、達成感の向上になり理想的である。個人の計画と市の計画を一体化させることができるとうい。PDCAを細かく回すことが成果を上げるために重要なポイントである。企業活動の中ではこのような点を意識しているので、参考にさせていただければと思う。

○米津会長

本日の議題はすべて終了した。

これをもって、令和5年度第2回行財政調査会を閉会とする。

－ 閉会 －